

宮崎県知事 河野 俊嗣

新年を迎えて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

皆様には、日頃から県政の推進につきまして温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。



さて、我が国が本格的な人口減少社会を迎え、人手不足や超高齢化、グローバル化や超スマート社会の進展など、様々な課題に直面する中、本県においても、将来を見据えた「持続可能な宮崎県の土台づくり」に取り組む必要があります。

このため、県では昨年6月、県総合計画「未来みやざき創造プラン」の「アクションプラン」を策定し、今年度から4年間で優先的に取り組む施策を取りまとめました。このアクションプランでは、人口減少問題への対応をはじめ、産業振興や経済活性化、スポーツ・文化資源を生かした観光振興、生涯健康・活躍社会づくり、激甚化する自然災害への備えや家畜防疫の徹底といった危機管理強化などを重点施策として、県民の皆様と一体となって着実に施策を進めてまいります。

このような中、本県では、様々な分野で次代につながる成果や成長の芽が生まれています。昨年は、都城志布志道路「横市IC～平塚IC」間の開通や、東九州自動車道「油津・夏井道路」の新規事業化、国富スマートインターチェンジの完成など、交通インフラ整備が着実に進展しました。また、東京オリンピックの予選を兼ねたサーフィンの世界大会が開催されたほか、ラグビーワールドカップにおいて、本県でキャンプを行った日本代表とイングランド代表が好成績を収め、侍ジャパンが世界野球プレミア12で初優勝して世界一となるなど、本県の優れたスポーツ環境を生かした大会やキャンプ・合宿が数多く実施され、引き続き、「縁起の良い」「結果の出る」合宿地であることを国内外にアピールすることができました。

いよいよ今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界の注目が集まる中、「スポーツランドみやざき」を掲げる本県としては、事前合宿の受入れや、木材や食材の提供等を通じて大会に貢献するとともに、宮崎の自然や食、観光など様々な魅力を積極的に発信し、より一層の飛躍に結びつけてまいります。

また、日本書紀の編さん1300年に当たる今年、記紀編さん1300年記念事業の集大成として、「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」が本県で開催されます。神話や神楽、国際音楽祭、若山牧水、食文化など本県が誇る文化資源を生かし、県民の文化芸術活動の振興を図り、魅力ある地域づくりにつなげてまいります。

さらには、陸の玄関口である宮崎駅西口の再開発事業が、今秋に完成予定となっており、官民を挙げた賑わいの拠点整備による様々な波及効果が期待されます。

こうした追い風をしっかりと捉え、本県の更なる発展につなげるため、水産業につきましては、「第五次宮崎県水産業・漁村振興長期計画（後期計画）」に基づき、様々な取組を行っております。特に、担い手の確保と資源の有効活用による生産と販売の拡大を目指して、「未来へつなぐ漁業担い手プロジェクト」と「魅力ある水産業の構築プロジェクト」の2つのプロジェクトを立ち上げ、重点的に施策を展開しているところです。

具体的には、漁船リース事業などの国の事業を活用し、収益性向上の基盤となる漁船や機器の更新を進めており、また、一昨年設置した「新規就業者応援バンク」に加えて、昨年9月には、中古漁船の売船情報の掲載も開始し、就業や漁業承継のより一層の促進に取り組んでおります。

また、操業支援対策として、昨年4月に、全国初となる漁業用海洋レーダーの運用を開始しました。これは日向灘の海況を広域的に観測し、インターネットを通じてリアルタイムで情報提供を行うことで、出漁前に出漁の判断や漁場選択が可能となるため、操業の効率化に大きく貢献することが期待されています。

さらに、昨年は例年になく不漁であったかつお一本釣漁業に対する金融支援策として、新たな制度資金を創設したところであり、漁業者の皆様が安心して経営ができるよう、引き続き支援してまいりたいと考えております。

県では、令和2年度の施策の展開に当たり、「地域や産業を支える人材の育成・確保」、「魅力的で持続可能な地域づくり」、「社会の変化に対応し、成長する産業づくり」という3つの柱に重点的に取り組みながら、「安心と希望あふれる宮崎」の実現を目指してまいります。今後とも、漁業者の皆様とともに関係者一丸となって全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

